

平成 28 年度 第 5 回小平市図書館協議会要録

- 1 日 時 平成 29 年 1 月 12 日 (木) 午後 2 時から 4 時 30 分まで
- 2 会 場 中央図書館 2 階会議室
- 3 出席者 図書館協議会委員：10 名 傍聴人：1 名
事務局：中央図書館長、館長補佐兼庶務担当係長、花小金井図書館長、
小川西町図書館長、調査担当係長、サービス担当係長、資料担当係長、
仲町図書館長、上宿図書館長
計 9 名
- 4 配布資料 資料は省略させていただきます。
- 5 議事等
 - (1) 報告事項
 - ① 図書館運営状況について
 - ・ 図書館行事等の報告と今後の予定について(資料No.1)
(これまでの報告)
 - ・ 12 月 1 日から 花小金井図書館を始めとして各図書館で、順次おたのしみ会を開催
 - ・ 12 月 24 日から 昨年図書館 40 周年記念事業として実施した「本の福袋」を今年も実施
 - ・ 1 月 5 日から ふるさと新聞元旦号展開始
 - (今後の予定)
 - ・ 1 月 14 日 子ども文庫連絡協議会主催に依る山口雅子講演会「子どもの目で絵本を楽しむ」を開催
 - ・ 1 月 21 日、2 月 18 日 ブックリサイクルを実施
 - ・ 1 月 22 日 冬の 1 日図書館員を開催
 - ・ 1 月 29 日 都立多摩図書館開館
 - ・ 2 月 1 日、2 日 多摩地域公立校図書館大会が開催
2 年ごとに小規模大会、大規模大会が開催される。
今回は、小規模大会のため 2 日間、3 部会での開催 個人の参加も可能
三多摩の地域資料についてのアンケートに基づいた研究発表会
障害者サービス研究会
 - ・ 2 月 9 日 宅配ボランティア懇談会
 - ・ 2 月 24 日 図書館情報検索講座を実施 (昨年に続き 2 回目)
「インターネット利用者端末」が全館に配備されていることから、データベースの利用を含め、情報リテラシーを高めていく主旨で企画
 - ・ 3 月 5 日 柚木麻子後援会「読書と私」を開催

市報1月1日号に掲載 はがきでの申し込みによる抽選方式

- ・3月16日 昨年、図書館40周年記念事業として実施した「図書館スペシャルデー」を今年も実施

② 平成28年度貸出状況について

- ・月別貸出状況は12月末で1,166,520点の資料貸出を行い、昨年同時期より1万6千点ほど減少しているが、昨年は、開館延長の試行のため、前年度より6万5千点ほど増加していたため、数的に落ち着いてきたととらえている。(資料No.2-1)
- ・新規登録者数については、529人の減(昨年度は437人増)、貸出者数は1,613人減(昨年度は24,122人増)。昨年から大幅に増えたため、数字ほど落ちてはいないと考えている。(資料No.2-2)
- ・広域利用者については、9割が市内在住者だが、多摩六都の利用も、東村山市、西東京市の利用者が増加している。「他市」は在勤、在学の方を示す。
広域利用者の書誌のない資料についてのリクエストは行わない方向で検討している。(資料No.3)

③ 12月市議会定例会について

一般質問で26人の議員から64件の質問があり、図書館関係の主なものは3件

○虻川議員

「地域センター、福祉会館、なかまちテラスへの身近な市民要望について」の件名で、なかまちテラスへの災害時優先電話の設置について質問があった。

答弁としては、災害時において優先電話となる公衆電話の必要性は認識している。設置について検討したが、近隣施設に設置されていることから現在のところなかまちテラスへの設置は考えていない。

○日向議員

「行政文書を市民の財産ととらえ公文書管理条例の策定を」の件名で、市史編纂で集められた資料を市民の財産として保管、閲覧できるようにすることの検討状況について質問があった。

答弁としては、新たに市史編纂事業で集められた資料のうち、古文書、古書については、整理・分類をして目録を作成・刊行しており、それに基づき原本の閲覧・複写にも応じている。その数はおおよそ3万4千点で、今後はデジタル化を進め、公開することを検討していく。その他の資料としては、自治会、企業等の会報があり、閲覧に向けて今後、整理・分類を行っていく。また、小平町報、市報、小平市に関する新聞記事については記事の内容から検索できる索引を作成している。

○山岸議員

「子どもたちの生き抜く力を育むために」の件名で、乳・幼児期を含む年代に応じた読書活動推進について、これまでの取り組みを踏まえ、今後、重点的に取り組もうとしているものは

なにか。

答弁としては、図書館では、平成 17 年度から、小平市子ども読書活動推進計画を策定し、家庭、学校、地域、図書館等が連携しながら、読書活動の推進を総合的、計画的に行っている。昨年度を計画初年度とした第 3 次計画では、未就学児及び小・中学校、高校という成長過程に合わせた取組を進めており、来館が困難な子どもとその保護者に向けたサービスや中・高生を対象としたサービスの拡充に重点を置いている。これまでの取組としては、未就学児には、市内全館で絵本のへやの開催と併せておはなし室を開放し、小さな子どものいる親子が図書館を利用しやすいよう自由に絵本を楽しめる場所を提供した。さらに一部の図書館では参加しやすい土曜日、日曜日におはなし会を設定した。小・中学生には、図書館を有効に活用してもらうためのレファレンスの拡充を目指し、中央図書館では夏休みに調べ学習支援のための子ども専用カウンターを開設した。また、市内都立高校の生徒から意見を聴取し、高校生のための図書館バックヤード体験講座を行った。今後も、読書活動のさらなる推進につなげていけるよう年代応じた様々な取組を展開していく。

④ ふるさとの新聞元旦号展示について

今回で 36 回目となる。今年度も中央図書館、大沼図書館、上宿図書館で開催する。

63 紙に寄贈依頼をして、現在 52 紙より送付されている。

平成 23 年度は 48 紙、平成 24 年度は 50 紙、平成 25 年度は 55 紙、平成 26 年度は 54 紙で実施した。例年 50 紙前後を寄贈していただいております、大分定着してきている。

委員：本の福袋で、ヤングアダルトはどのような状況だったのか。

事務局：福袋の児童向けは各年齢区分に応じて作成したが、中学高校生向けの貸出状況は良かった。

去年、全館で約 670 袋 2,600 冊が貸し出された実績から、今年は全職員で作成して地区館、分室を含めて 12 月 24 日から開始した。「本の福袋」の名称のため、年明けにも継続できるように追加も行った。

委員：12 月議会のなかまちテラス災害時優先電話の設置の答弁で、近隣に設置されているので仲町テラスへの設置を考えていないとあったが、近隣とはどこになるか。

事務局：300 メートル以内を近隣としており、なかまちテラスの場合小平高校付近の商店の隣、青梅街道沿いの十四小南交差点、ルネ小平などがある。

委員：学校にも設置されている。

委員：小平に転入された津波や地震の被災者はどのくらいいるか。

事務局：人数は把握していないが、図書館としては、寄贈された福島県の新聞と福島県庁の発行している情報誌を中央図書館 1 階ブラウジングコーナーに置いて情報提供しており、福島県出身の方などに喜ばれている。

委員：11 月 10 日の大人のためのおはなし会で津田図書館の参加者が 10 人というのが、以前参加したときの経験からして、少ないように思える。小・中学生の保護者ばかりが参加するわけではないと思うが、おはなし会に子どもたちが参加するという意味も含めて、近隣の学校の行事などを確認の上で日程を設定してほしい。なかまちテラスのおはなし会の参加者が極端に少ないのは案内、周知が足りなかったということがあったのか。

事務局：他の催しと重なったりしているケースはある。仲町図書館については、近隣の地域センターの催しと重なったということ、クリスマスが近くなると参加者が集まりにくくなること、地域の学校にはチラシを配布したが保育園に参加案内をしていなかったことなどがあつた。来年は仲町保育園にも周知を行いつつ日程調整には留意したい。

委員：各学校では年度初めに年間の行事予定を配布しているが、図書館では入手しているか。

事務局：教育委員会の日程は把握しているが、他にも保育園や地域センターなどで催しがあること、天候による参加人数の減など様々な条件がある。そのような中で、より多くの方に参加してもらうように考えていきたい。

委員：11月26日の「本を食べる」について、ホームページくらいしか広報がなかったと思うが、たくさん来た。お菓子等を買えなかった人もたくさんいたようだが。

事務局：武蔵野美術大学との連携も3年目だが、毎年学生は変わる。今年は企画が決まるのがギリギリになったため広報は十分にできなかったが、C A Z E C A F Eと連携したり館内案内の掲示の統一感を持たせたりという企画のもと予想以上に来ていただき好評であつた。

委員：健康センターの3~4か月児の乳幼児健診会場で図書館の広報活動が行われているが、周囲の保護者に聞くと、健診会場では保護者の関心が子どもの成長状態に集中するためか、広報活動の内容があまり印象に残っていないようである。保護者自身に関心があつて図書館に通われている場合は子どもが小さい時から図書館になれ親しんでいるが、それ以外の方は、転入されてきた方も以前から在住の方も含め、図書館にたくさんの子童書が準備されていたりおはなし会を実施していたりすることを知らないのでは残念に思われる。他の形で広報が考えられないだろうか。たとえば、私立の幼稚園の保護者向けに、おはなし会を広報するのはどうだろうか。

委員：最近第2次ブックスタートということで、1歳半で取り組むところもあるが、2回実施するのは大変なことでもある。3~4か月児健診よりも後の健診で行った方が、効果があるのではないかという印象はある。

事務局：3~4か月児健診の参加率が約96%と高いことが、多くの人に周知するのに適している。騒然としている会場でも読み聞かせを始めると静かになって聞いてくれるので、まったく効果がないということではないと思われるが、それとはまた別に広報をしていく必要はあると思う。

いっしょに来ている兄弟も真剣におはなしに聞き入っていることもあり、0歳から小学校に入学するまでの間を繋いでいき、そしておはなし会に来ってもらうためのひとつのやり方と考えている。

委員：子どもの数が少なくなっている中で、働いている母親や学童クラブに行っている子どもは増えている。世の中の危険性を考えると、子どもをひとりで図書館に行かせることが難しい環境になっている。

事務局：仲町図書館や小川西町図書館のように、日曜日におはなし会を実施して父親と参加するなど様々な試みを行う必要はあると思われる。

委員：かつて20人、30人の参加があつたころは保護者がおはなし室に入ることができず、どのようなことをやっているか知ってもらうために大人のためのおはなし会が始まったが、子どもをおはなし会に行かせている親も少なくなるにつれて参加者が減少し、最近はおじいさんおばあさんの参加も増えている。

委員：学校や保育園などで行う出張おはなし会はどのくらい行われているのか。ブックトークは3

か月前に申し込みをするのが負担になっている。

事務局：ブックトークはかなり数が増えてしまって年間計画を立てないと対応できない状況になっている。協力員の方にも研修をしてブックトークをやってもらえるなどスムーズに行える体制を考えていく必要がある。

委員：ブックトークを行うには相当の準備時間も必要なので体制作りは必要であり、学校もブックトークを年間計画に組み入れていく必要がある。

委員：保育園や幼稚園などからのブックトークやおはなし会の要望にも対応してもらえるのか。

事務局：おはなし会は子ども文庫の方でかなり対応していただいている。

委員：子ども文庫では市立保育園は全園に対して実施しており、現在のところ申し込みしてもらえれば対応できる。

委員：私立幼稚園は申込できるのか。それに応える人員が育っているのか。

委員：おはなし会であれば子ども文庫で申し込みに応えられる。

委員：学校でも教師が読み聞かせを行ったり、地域の方が来て始業前に読み聞かせの時間を設けたり、高学年が低学年に読み聞かせたりするなど、いろいろな活動を行っている。

委員：学校、地域、図書館それぞれが活動を継続していくことが大きな効果を生むと思われる。

委員：小学生は図書館見学を、中学生は職場体験を実施しているが、全学校実施しているのか。中学校は人数が少ないが、希望者が少ないのか。

事務局：小学生は2、3年生がクラスごとなどで図書館見学を行っている。中学生の職場体験は生徒がたくさん職場の中から希望する職場を選び、校長先生からの依頼によって実施している。

委員：100種類弱の職種の中から選択して5日間程度と長期にわたって実施するので、どうしても少人数に分けて体験することになる。図書館見学も職場体験もすべての学校で実施している。

(2) 協議事項

特になし

(3) その他

特になし